

【みやま市】  
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	2,356	2,307	2,289	2,228	2,158
② 予備機を含む整備上限台数	2,709	2,653	2,632	2,562	2,481
③ 整備台数（予備機除く）	0	1,529	760	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	1,529	760	0	0
⑤ 累積更新率	0%	67%	100%	0%	0%
⑥ 予備機整備台数	0	214	114	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	214	114	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	14%	15%	0%	0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

（端末の整備・更新計画の考え方）

令和2年度のGIGA第1期に購入した端末を、令和7年度、令和8年度の2カ年で更新する。

（更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について）

○対象台数：2,602台

○処分方法

更新対象端末のうち使用可能な端末については、教職員、支援員などの使用等、学校での活用を図る。また市役所、図書館等公共施設や福祉施設など地域での再利用を検討し、活用されず残ったものについては、事業者へ再使用・再資源化を委託する。

○端末のデータの消去方法

処分事業者へ委託する

○スケジュール（予定）

令和8年4月 新規購入端末の使用開始（7年度購入端末）

令和9年4月 新規購入端末の使用開始（8年度購入端末）

※使用不可能な端末を毎年度取りまとめ、事業者へ再資源化を依頼

【みやま市】  
ネットワーク整備計画

- 1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）  
総学校数：11校（小学校7校、中学校4校）  
必要なネットワーク速度が確保できている学校数：0校  
総学校数に占める割合：0%
  
- 2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール
  - (1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール  
令和7年9月までに各校における課題の特定を完了させる。
  
  - (2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール  
ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年10月から改善策の検討を開始する。改善策の検討が済み次第、予算の確保を行い、順次改善を実施し、令和8年度内の完了を目指すこととする。

【みやま市】  
校務 DX 計画

1 校務 DX の現状と課題

当市では、令和 2 年 4 月より統合型校務支援システムを稼働し、成績処理や集計作業の効率化等、教職員の負担軽減を図っている。しかしながら「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省令和 6 年 11 月実施）の自治体別達成状況において、学校設置者の点数が 235 点、学校の点数が 358.5 点と、いずれも福岡県全域の平均を下回っている。

2 今後の方針

校務 DX の推進に向け、現在整備している校務環境を十分に活用し、下記取組を着実に実施していく。

(1) 学校と教育委員会間のデジタルファースト化

- ・ 教育委員会に提出を求める様式における押印・署名の原則廃止
- ・ FAX での教育委員会とのやり取りを原則廃止
- ・ 統合型校務支援システムでのコミュニケーションによるペーパーレス化推進

(2) 学校内でのデジタルファースト化

- ・ クラウドサービスを活用した職員会議の推進、資料の共有化
- ・ 統合型校務支援システムにおけるグループウェア機能の積極的な活用
- ・ オンラインフォームを活用した児童生徒への調査・アンケート推進

(3) 学校と保護者間でのデジタルファースト化

- ・ 保護者連絡ツールの積極的活用によるペーパーレス化推進
- ・ 児童生徒の出欠連絡における保護者連絡ツールと統合型校務支援システムの連携

## 【みやま市】

### 1人1台端末利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申（令和3年1月）において、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が示されている。

当市では、第2次みやま市総合計画後期基本計画の中で、「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実」を掲げており、ICT活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

#### 2 GIGA第1期の総括

令和2年度より学習者用端末の整備や通信ネットワークの整備等による情報活用推進体制の整備を進めてきたが、通信速度の問題等による不具合も確認され、ネットワークアセスメント及び環境改善を行う必要がある。

また、ICT活用の学校間、教職員間の格差も表れてきており、スキルに合わせた教職員研修等を充実させ、児童生徒の学びにおいて格差が生じないようにしていく必要がある。

#### 3 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想により1人1台端末が整備され、学校での授業や家庭学習での活用が進んでいる。1人1台端末はもはや不可欠なものであり、端末整備・更新により引き続き環境を維持していくことを前提として、以下のように利活用を進めていく。

##### (1) 1人1台端末の積極的活用

- ・ 児童生徒の持ち帰り学習による端末の積極的な活用を推進
- ・ 授業支援クラウド活用による端末の積極的な活用を推進

##### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ・ 成長段階に応じたICT活用スキル取得のための支援ツールを活用した教育の推進
- ・ 授業支援クラウドを用いた「教師と児童生徒のやりとり」や「自分の考えを表現する」場面での端末活用による、個別最適・協働的な学びの充実

##### (3) 学びの保障

- ・ 不登校などの児童生徒への端末を活用した授業への参加・視聴の機会確保の拡充
- ・ 特別な支援を要する児童生徒の特性に応じた端末活用による支援の拡充
- ・ 希望する児童生徒が端末を活用した教育相談を受けられる仕組みの検討